

第38回(昭和62年度)九州地区大学図書館協議会総会記録

日 程 表

1. 期 日 昭和62年4月24日(金)
2. 会 場 公立学校共済組合佐賀宿泊所「葉がくれ荘」
(〒840佐賀市天神2丁目1番36号 TEL 0952-24-4318)
3. 日 程
- 9:00 受付開始
- 9:30 開 会
開会のことば
当番館長挨拶
議長選出
議長挨拶
新任館長等紹介
表 彰
新規加入館の承認
幹事館報告
昭和61年度決算及び監査報告
昭和62年度予算案審議
国立・公立・私立・私立短大各部会報告
- 10:30 協議題審議
「九州地区大学図書館間における研究者の身分証明書の提示による他館利用(但し、資料の閲覧と複写利用を原則とする。)」について
(熊本大学)
「大学図書館の一般公開について」 (九州大学)
- 12:00 昼 食
- 13:00 講 演 「高度情報化社会の現状と将来」
講 師 産業能率大学教授
味 村 重 臣
- 14:30 次期役員館の選出
幹事館・監査館の選出
表彰委員館の選出
次期当番館の選出 そ の 他
- 15:00 幹事館長挨拶
閉会のことば

出席者名簿(○印は新任者)

【国立大学】

福岡教育大学
事務長
九州大学
館 長
事務部長

○小川耕右
平嶋 義宏
砂本 眞

| | |
|----------|---------|
| 閱覽課長 | ○辻本 和央 |
| 學術情報課長 | ○袴田 次雄 |
| 整理課長補佐 | 西嶋 武 |
| 九州芸術工科大学 | |
| 館長 | 澤村 仁 |
| 事務長 | 平山 國敏 |
| 九州工業大学 | |
| 館長 | 迎 静雄 |
| 事務長 | ○大宮 亨 |
| 佐賀大学 | |
| 館長 | ○榎本 則行 |
| 事務長 | 八尋 重久 |
| 長崎大学 | |
| 事務部長 | 吉岡 千里 |
| 整理課長 | 松本 昭夫 |
| 熊本大学 | |
| 館長 | 荒木 尚 |
| 事務部長 | 相良 侯秀 |
| 閱覽課長 | 福岡 廣 |
| 大分大学 | |
| 館長 | 長坂 聡 |
| 事務長 | 牧 州助 |
| 大分医科大学 | |
| 館長 | ○山之内 卯一 |
| 教務部長 | 笹島 正一 |
| 図書課長 | 下村 一夫 |
| 宮崎大学 | |
| 館長 | ○新城 敏晴 |
| 事務長 | 上村 義郎 |
| 宮崎医科大学 | |
| 教務部長 | 坂元 治 |
| 図書課長 | 佐田 忠鴻 |
| 鹿児島大学 | |
| 館長 | 上村 剛一 |
| 事務部長 | ○渋谷 喜雄 |
| 閱覽課長 | ○北村 武夫 |
| 琉球大学 | |
| 館長 | 國府田 佳弘 |
| 事務部長 | ○重松 多喜造 |
| 整理課長 | 尾崎 一雄 |
| 佐賀医科大学 | |
| 館長 | 古賀 昭典 |
| 図書課長 | 長 和栄 |

【公立大学】

| | |
|--------|-------|
| 北九州大学 | |
| 事務課長 | 児玉 至誠 |
| 司書係長 | 板野 晶 |
| 九州歯科大学 | |
| 館長 | ○中原 敏 |
| 主任主事 | 灘吉 祥文 |

| | |
|-------------------------------------|-----------------------------------|
| 福岡女子大学 館長 事務長 | 丸田 敬 湊 文衛 |
| 福岡県社会保育短期大学 館長 主事 | ○繁永 芳巳 大久保愛子 |
| 長崎県立国際経済大学 館長 専門幹 主事 主事 | 亀井 正義 ○白石 琢雄 寺島 淑恵 池上 明美 |
| 長崎県立女子短期大学 館長 主査 | ○大屋富久代 山本 芳江 |
| 熊本女子大学 館長 教務職員 | 友田 勲 中島 典子 |
| 大分県立芸術短期大学 館長 主任 | ○佐藤 武郎 安部 陽子 |
| 鹿児島県立短期大学 館長 主査 | 高向 嘉昭 徳 桂 |

【私立大学】

| | |
|--|-----------------------------------|
| 九州産業大学 館長 事務室長 | ○鐘ヶ江 寿 安永 一利 |
| 久留米大学 館長 御井図書館長 医学図書館課長 整理係長 | ○笹井陽一郎 ○米永 隆司 塩川 正隆 坂井 茂 |
| 西南学院大学 事務次長 情報サービス課長 | 刀根 淳 今永 義純 |
| 第一薬科大学 司書 | 山口 芳子 |
| 中村学園大学 館長 図書課長 | 山藤 圭子 ○平川 友視 |
| 西日本工業大学 課長補佐 | 宗広 明則 |
| 福岡大学 館長 図書課長 | 今村 茂 藤木 勝 |
| 八幡大学 館長 司書長 | ○藤原欣一郎 豊見本長栄 |
| 西南女学院短期大学 書記補 | 石兼 富子 |

| | |
|-------------------------------|----------------|
| 福岡女子短期大学 館長 課長 | 北原 慶子 谷川 憲介 |
| 九州龍谷短期大学 館長 司書長 | 内田 時哉 定良 誓信 |
| 長崎総合科学大学 図書課長 | 宇土 行良 |
| 純心女子短期大学 主任司書 司書 | 本田 弘子 吉田 真美 |
| 九州東海大学 館長 図書課長補佐 | ○松村 正 岡村 晴夫 |
| 熊本商科大学 館長 事務長 | 西園寺明治 角居 京輔 |
| 別府大学 館長 | 林 章 |
| 南九州大学 館長 司書 | 高山 昭康 中村 稔 |
| 鹿児島経済大学 事務長 図書係長 | 栄 喜久元 藤田 淳二 |
| 鹿児島純心女子短期大学 館長 課長 | ○芳 即正 三島 盛武 |
| 鹿児島女子大学 館長 | 遠藤 辰雄 |
| 鹿児島女子短期大学 図書課長 | 福島 良一 |
| 鹿児島短期大学 館長 事務長 | 平 常三 ○宇都 哲 |
| 沖縄国際大学 館長 図書課長 | 緑間 栄 玉那覇 昇 |
| オブザーバー 西九州大学 館長 図書課長 | 南川 勝次 堤 慶征 |

議事要録

〈開会のことば〉

佐賀医科大学図書課長
長 和 栄

〈当番館長挨拶〉

佐賀医科大学附属図書館館長

吉賀 昭典

おはようございます。只今、紹介にあずかりました私、佐賀医科大学附属図書館館長の古賀でございます。当番館長として、一言御挨拶申し上げます。昨年、博多で皆様にお会い致しまして丁度一年、また、この地で再会できますことを大変よろこびに存じております。

最近、大学、特に図書館をめぐるの状況は大変厳しいものがございます。経済の低迷、あるいは、国家行財政の危機、定員削減、しかもそういう状況の中で大学図書館は教育と研究の支えとしての本来の任務のみならず、情報公開と言うような社会的、時代的要請を受けて、こういうものにも答えがなければならぬような状況に追い込まれております。このような状況の中で、大学図書館が担って来た使命を果たすためには、我々図書館の人間の一致した協力が必要だろうと思います。今日は皆様方の親睦を深められるとともに、図書館の任務の発展のために充分な御協力と御討議をお願いしたいと思います。当番館といたしましては、この一年間九州大学はじめ、昨年の当番館であります九州芸術工科大学、公立や私立の当番館であります長崎県立国際経済大学、西九州大学、九州龍谷短期大学の皆様の熱心な御協力をいただきまして、今日までこきつけてまいりました。あらためてお礼を申し上げます。

私共といたしましては、出来るだけの努力をしたつもりではございますが、何分にも単科の弱小大学でございまして、いたらぬ点多々あるとは存じますが、どうぞ皆様の御協力で今日の会議がスムーズに行きますよう、よろしくお願い申し上げます。

〈議長選出〉

九州地区大学図書館協議会総会運営に関する細則第2により、当番館館長が議長に選出された。

〈議長挨拶〉

佐賀医科大学附属図書館館長 吉賀昭典

慣例によって議長をつとめさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

〈新任館長等紹介〉

自己紹介。

〈表彰〉

九州地区大学図書館協議会表彰規程により、次の方々が表彰された。

1. 勤務期間が20年に達した者

(表彰規程第2条第1号)

| 氏名 | 大学名 |
|------|--------|
| 園田国昭 | 九州大学 |
| 山田律子 | 〃 |
| 穴見一博 | 〃 |
| 田中 粧 | 〃 |
| 納戸和泉 | 佐賀大学 |
| 武富敏磨 | 〃 |
| 土井潮子 | 鹿児島大学 |
| 井上 実 | 熊本商科大学 |
| 横田栄子 | 沖縄国際大学 |

2. 勤務期間が20年以上の者で退職または転職した者

(表彰規程第2条第2号)

| 氏名 | 大学名 |
|-------|------|
| 西浦松男 | 九州大学 |
| 高瀬邦彦 | 〃 |
| 徳永トシ子 | 長崎大学 |
| 新城安善 | 琉球大学 |
| 野原敏弘 | 〃 |

〈新規加入館の承認〉

西九州大学

久留米大学の米永館長から、さきに提出された入会申込書に基づき、西九州大学図書館の現状について紹介があり、協議の結果、満場一致で加入が承認された。

その後、西九州大学南川館長から新規加入の挨拶があった。

〈幹事館報告〉

九州大学附属図書館 砂本事務部長 幹事館として、国立・公立・私立大学図書館にそれぞれ関係のある事柄について、7項目ご報告いたします。

1. 加盟館数について

先ほど新しく加入が承認された西九州大学を含めて、国立14、公立9、私立27、の合計50大学となった。

2. 国公立大学図書館協力委員会について

昨年度は、3回開催され、次の4点について報告いたします。

1) 委員館の増があり、国立では、一橋大学、名古屋大学、大阪大学の3館に東京大学が加わり4館となった。公立は、東京都立大学と神戸外大の2館で変更なく、私立大学は、慶応大学、関西学院大学、関西大学の3館に早稲田大学が加わり4館となり、4対2対4の割合となった。

又、同委員会の委員長が、一橋大学の河合館長から神戸外大の蔵中館長に交替した。任期は、61年8月から一年間であり、国公立の輪番制である。

2) 「大学図書館協力ニュース」は、現在、648部購読されている。昨年に比べ若干減っており、各大学におかれましても購入増をお願いしたい。

3) 国公立大学図書館間文献複写について

昨年10月に、一応、協定、マニュアル、業務一覧、の三つの案が整った。現在、私立大学からの要望について調整中である。

4) 第7回大学図書館研究集会について

国公立大学図書館協力委員会と日本図書館協会大学図書館部会共催で、昨年11月22～23日の2日間、全国の国公立大学から261名の参加を得、「大学図書館のシステム整備と開発に向けて」というテーマで、東京都立大学で開催された。なお、第8回については、関西方面で開催される予定である。

3. 日米大学図書館セミナーについて

昨年8月24日、神田の学士会館で開催され、米国側から24名、日本側から57名の参加を得、「日米両国の高等教育における大学図書館の活動」というテーマで活発な討議がなされた。特に、日本における学術情報センターを中心とした情報流通体制の整備については、アメリカ側が深い関心を示したとのことである。このセミナーの会議録は、6月頃刊行され、丸善を通じて販売される予定である。

4. 第52回IFLA東京大会について

昨年8月24日から6日間、国立劇場と青山学院大学を主会場として開催され、全世界から、55ヶ国、1,787名、日本側から1,092名の参加を得、「21世紀への図書館」というテーマのもとに、32の分科会と6つのラウンドテーブルに分かれ、活発な討議がなされた。

なお、大学図書館部会は、456名の参加で内訳は国立106名、公立8名、私立342名である。

5. 第22回大学図書館国際連絡委員会について

昨年9月、東大図書館で開催され、日米大学図書館会議については、今まで3回開催されており、現在、第4回開催の目処がつき、その実行を図るため委員長には、東大館長、副委員長には、京都、福岡女子、関西学院大・学の各館長、幹事として、横浜市立、早稲田の各館長が選出された。

6. 学術情報センター関係について

1) 本年4月から、情報検索サービス(NACSIS-IR)を有料で公開する旨の通知があり、これは大学の研究者の研究活動や、図書館の参考調査業務の支援を目指すもので、このシステムについての「情報検索サービス利用の手引」は、すでに各大学に送付されている。

これによれば、12のデータベースを含む390万件の事項を、研究室や図書館に設置したオンライン端末から、直接検索が可能となる。

なお、公衆電話回線や専用回線等を用いるので、ある程度の経費は必要かと思われる。

2) 大学図書館と学術情報センターとの接続について、本年3月31日現在で、国立25大学、私立4大学、計29大学となり、このうち、すでにデータを送っている大学は13大学である。

7. 学術情報システム特別委員会について

国立大学図書館協議会では、昨年6月に同委員会を設置した。これは、各大学がセンターと接続する場合に、調整すべき多くの問題等があり、これらを一つ一つ解決し、このネットワークのスムーズな発展に寄与したいとして設置されたもので、この特別委員会のもとに、ネットワーク専門委員会と、ワーキンググループが設置され、精力的に活躍している。

なお、このワーキンググループには慶応大学も参画している。又、本年1月に、国立95大学、公立3大学、私立22大学にアンケートを送付し、それを収集分析中である。さらに3月には、「大学図書館システムと共同分担目録(案)」として、第1次報告が出されたが、今後は、これを検討し、6月には、中間報告がまとめられる予定である。

以上幹事館の報告を終わります。

議長

どうも、有難うございました。

ただ今の報告に対しまして、ご質問などございましたら、ご発言をお願いいたします。つきましては、恐縮ですが、議事録を作成いたします関係で、ご質問の場合は、必ず所属大学名とお名前をおっしゃって下さい。

何かございませんか。では、ないようですので、次の議題に進ませていただきます。

〈昭和61年度決算及び監査報告〉

幹事館の九州大学西嶋整理課長補佐から、別紙決算書について報告があり、続いて監査館である福岡女子短期大学谷川課長から、監査の結果、収入、支出について適正な処理がなされている旨の報告があり、承認された。

〈昭和62年度予算案審議〉

幹事館の九州大学西嶋整理課長補佐から、別紙予算案について説明があり、承認された。

〈国立・公立・私立・私立短大部会報告〉

(国立部会報告)

佐賀医科大学 長図書課長

国立大学図書館部会の報告をいたします。

第17回(昭和62年度)九州地区国立大学図書館協議会は、昨日、23日13時から当「葉がくれ荘」において、九州地区15国立大学の全ての図書館から40名の参加者をえて、終始熱心な討議が行われました。今回の国立大学図書館部会の協議題といたしまして、6項目あり、まず、

1. 学術情報システム関連の研修強化について(長崎大学)

このことについては、学術情報センターでも、ブロック毎の研修を計画しているようでございます。この問題は、地域レベルと中央レベル両面での研修の実現に向けて、検討、努力を要するものであり、従って、第34回国立大学図書館協議会総会への提出議題とし、関係当局へ要請するよう各大学の了解を得ました。

2. 九州地区大学図書館における研究者の身分証明書の提示による他館利用(但し、資料の閲覧と複写利用を原則とする。)について(熊本大学・宮崎医科大学)

国立大学間では、すでに身分証明書による利用は、基本的には了承されております。ただ、一部で身分証明書の形式等で、若干、問題があるとする大学がございますが、ほとんど全ての九州の国立大学間では、身分証明書による他館利用は、現に実施されております。これを、今回は国立のみでなく、更に九州地区の公・私立大学等にも拡大しようと、今日提案することにいたしました。

3. 九州地区大学図書館の学生証による利用についての申し合わせ(案)について(琉球大学)

このことについては、先の協議題(2)と同様に基本的には了承され、すでに実施されております。

す。ただ、ケース・バイ・ケースで実施上問題がある場合もあるので、そのような問題について実務者レベルで、さらに問題点を検討することになりました。

4. 学術情報センターとの接続に関わる諸問題について(琉球大学)

現在、接続されている九州大学及び琉球大学から現状の報告があり、さらに鹿児島大学から詳しいアンケート調査結果報告が行われました。今後も、各大学間で情報交換を密にして、対応の仕方、問題解決の方向を協議しながら、十分機能的な接続形態を考えていくことにいたしました。

5. 大学図書館の一般公開について(九州大学)

本日の資料としてお配りしておりますが、国立大学図書館協議会において、昨年9月、「国立大～館における公開サービスに関する当面の方策について」という報告書が発行され、これを基に、各大学で検討しているところですが、昨日の会議において、各大学から現状の報告をお聞きし、引続き検討することになりました。既に、相当数の大学で学外者への利用を実施しており、さらに内規について検討中のところもあります。これについては、本日の協議題として九州大学から提案理由の説明が行われます。

6. 第34回国立大学図書館協議会総会への提出議題について(九州大学)

以上の審議から、次の2点を7月に草津で開催される、第34回国立大学図書館協議会総会への九州地区としての提出議題とすることに決定いたしました。

1)学術情報システム関連の研修強化について

2)定員削減に際しての図書館職員に対する特別配慮について

また、昭和62年度国立大学図書館協議会の九州地区役員館には、地区連絡館が九州大学、理事館が鹿児島大学・九州大学、昭和63年度九州地区国立大学図書館協議会の当番校が琉球大学と確認され、併せて、次期九州地区大学図書館協議会の国立大学図書館部会としての表彰委員館に、宮崎医科大学・大分医科大学を承認いたしました。

以上をもって、報告を終わらせていただきます。

議長

どうも有難うございました。

では、続きまして公立部会の方、お願いいたします。

(公立部会報告)

長崎県立国際経済大学 亀井館長

公立部会のご報告を申し上げます。

昨日、23日、13時30分から公立部会を会場 2階会議室「多良」の間にて、9大学20名の参加を得て開催いたしました。長崎国際経済大学から「学生に対する図書館利用指導について」の照会事項の提案がありましたので、各大学から寄せられた回答について、その内容の説明を賜りました。学生の図書館離れをいかに押し留めるかについて、各大学は各々苦心されており、学生課主催による新入生オリエンテーション時の図書館案内、スライドを用いた図書館利用指導、少人数による図書館ツアー、図書館独自のオリエンテーション開催等、さまざまな利用指導がなされているのが明らかになりました。

今後、学生の図書館利用をいかに向上させるかに対し、各大学の事例はいろいろと示唆を与えてくれるものと思われまます。

その他の議題といたしまして、地方財政の逼迫による図書館予算削減にいかに対処するか、図書の紛失処理、図書館の情報システム化等について活発な情報の交換が行われました。なお、次期役員館であります、表彰委員館には福岡女子大学・九州歯科大学、当番館として鹿児島県立短期大学を承認いたしました。以上が公立部会での活動の内容でございます。

議長

どうも有難うございました。

続きまして、私立部会の報告をお願いいたします。

(私立部会報告)

九州産業大学 安永事務室長

私立大学では、九州地区図書館協議会の下部組織というものではないのですが、私立大学図書館協会西地区部会九州地区協議会というのを、昨日、15時から当「葉がくれ荘」において、西九州大学の当番で開催させていただきました。まず報告事項といたしましては、61年度の

私立大学図書館協会並びに西地区部会の活動状況及び会計報告が行われました。その主なものとして、各地区の協議会報告、研究会報告があり、又、機械化委員会の活動状況、相互協力委員会の活動状況等が報告されました。第二番目には、62年度事業計画案と予算案。事業計画案につきましては各地区の協議会活動、研究会活動、それと西地区部会の春季部会、秋季部会の開催について、それに総大会の開催要領について説明がありました。

その他には、役員、委員の交替の時期が今年度になっておりますので、その各役員と委員の交替の報告がありました。

九州地区関係では、西地区部会の秋季部会は、八幡大学の世話で今年の秋開催される予定です。又、中村学園大学が研究幹事館として、第一薬科大学・熊本商科大学が研究発表館として担当されることになっております。協議事項といたしましては九州地区大学図書館協議会の表彰館として、九州東海大学・沖縄国際大学を選出いたしました。次年度の役員館並びに研究幹事館として、一応ローテーションを組んでおりまして、63年度は、理事館として九州産業大学、研究幹事館は第一経済大学、研究発表館は第一経済大学・西九州大学・九州産業大学が担当になっております。三番目にローテーションの変更といいますが、今日まで組まれていましたローテーションに、今後新たに加盟される大学がおられますので、そのローテーションの組み方について、今後検討して行くという事になりました。それから来年度九州地区での協議会の当番館は、沖縄国際大学におねがいすることになりました。その他の照合事項として、熊本商科大学から、「相互利用にかかる費用の取り扱い」ということで照合事項がございまして各大学から実状の報告書を熊本商科大学へ提出しております。以上が私立大学の報告でございます。

議長

どうも有難うございました。

続きまして、私立短大部会の報告をお願いいたします。

(私立短大部会報告)

鹿児島短期大学 平館長

私立短期大学では、昨日11時から観光ホテル「山水荘」で総会を開きました。当番館の九州龍谷短期大学には、大変お世話になりまして有難うございました。

午前中が総会、午後が1時から5時までで研修全ということで研究発表も行われまして、熱心な質疑応答がありました。ほとんど全員が次の懇親会まで残りまして、大変親睦を深め有意義な一日だったと思っております。総会では、例年通り予算、61年度の決算、それから監査報告、事業報告、62年度の予算審議が行われましたが、62年度の事業計画の中で短大部会と申しますか、九州地区の短期大学図書館協議会で、一昨年4月に雑誌総合目録というのを発行しまして、これが2年たっておりますので、その改訂版を今度作ってはどうかという事が協議題になりました。そして、新しい事業として今年度前半にその改訂に要するいろいろなデータを集めまして、後半にかけてこれを刊行するということが決められました。その他に新しい加盟館が一館、西日本短期大学が現在学内で加入の手続きを進めているということで現在28館ありますけれど、西日本短期大学が加わりますと29館と言う事になります。午後1時から東地区、つまり関東地区方面の私立短期大学の図書館関係と九州地区の図書館協議会の関係で交流を深めたいと言う事もありまして、今年度は特に、私立短期大学図書館協議会の本部事務局の顧問をしておられる片山喜八郎先生を東京からお招きして、「短期大学図書館の今後のあり方と問題点—特に機械化との係わり合いについて—」という題で講演をお願いしました。

これは、先生自身の経験を通して具体的なお話がありまして、コンピュータの使い方など大変身近な問題で、これから電算化を進めて行こうという方にとって大変有意義であったと思っております。次に、九州地区からは、福岡女子短期大学の下条係長から「学生の図書館利用について」と題して、同じ短期大学の学生の利用実態を数量的に把握され、そのデータをもとに分析した結果、それに対する対応と、これからの課題について同館員の熱心な取り組み方の実例を紹介されて、深い感銘を受けました。以上が報告でありますか、その協議事項の中で、この総会の時期について要望がございました。例年行われているこの総会が4月22～23日頃ですが、私立短大の図書館としましては、年度初めでありまして新入生の図書館利用指導で、大変忙しい時期であります。この時期をもっと後ろの方にはずらすことを検討していただけないかと言う事でございます。と申しますのは、私立短大の部会では、昨日14館25名の出席ですけれども、その中で館長は6～7名、あとは司書の若いお嬢さんと言う事で、現場におられるものですから、どうしても新学期で利用指導に忙しいこともありまして、もう少し時期的に遅ければ出席可能な方が多いのではな

いかという問題点が出されました。以上でございます。

議長

どうも有難うございました。以上、各部長からの報告が行われましたが、これらの報告に対して何かご質問がございますか。ないようですので、次に協議題に移らせていただきます。

〈協議題審議〉

どうもありがとうございました。

これで、大体午前中に予定しておりました議題は一応終了いたしました。

それでは午後1時から、味村先生のご講演もございますので、それまでゆっくり昼食その他ご休憩などしていただきたいと思います。

〈講演要旨〉

『高度情報化社会の現状と未来』

講師 産業能率大学 教授

味村 重臣

〈次期役員館の選出〉

議長

次期役員館の選出でございます。まず幹事館でございますが、幹事館は協議会会則の第6条で、「その任期を2年とする。但し再任を妨げない。」とあります。昭和0年、61年度は九州大学さんにお引受け願っておりました。任期が切れた訳でございます。次の62年、63年度の幹事館を皆様方から推薦していただきたいのですが、これは自薦、他薦でも結構でございます。私の所でやりたいとおっしゃってくださる方が、いらっしゃったら大変ありがたいのですが、如何いたしましょうか。ご発言がございませんよう、大変越権ではございますが、一番お仕事になれておられる九州大学さんにもう一度議長としてはお願いいたしたいと思っております。大変迷惑でございますが、皆様の拍手がございましたので、九州大学さんにまた幹事館をお願いいたしたいと思っております。次に監査館、表彰委員館、次期当番館等について、幹事館の方からご説明をお願いいたします。

九州大学 砂本事務部長 次期の役員館が選出されましたので、ご報告いたします。

監査館は九州芸術工科大学さん、表彰委員館は国立は宮崎医科大学さん、大分医科大学さん、公立は福岡女子大学さん、九州歯科大学さん、私立が九州東海大学さん、沖縄国際大学さんの6校でございます。当番館は琉球大学さんでございます。以上でございます。

議長

以上幹事館の方から次期役員館について、ご説明がございましたが、皆様のご承認を確認いたしたいと思っております。拍手をお願いいたしたいと思っております。（拍手）

次に、次期当番館をお引受け下さいました琉球大学さんから、ご挨拶をお願いいたします。

琉球大学 國府田館長

ただ今、役割を言われました時に、拍手でご承認と言うことではございましたけれども、出来ることなら当番館の所だけ拍手を除きたかったのですが、ついそういう訳にもいかず、私もつい拍手をしてしまいましたので、お引受けした事になる訳でございますが、私どもも大変ですが、皆様もはるばる沖縄までおいで頂くことになりまして大変でございますが、ただ沖縄は遠いから大変だと思われまして、これは大間違いでございます、ここにいらっしゃっている宮崎、鹿児島、大分の皆様よりはずっとずっと沖縄は近うございます。と申しますのは、最近の地図というのは距離で書くのではなくて、時間で書くのでございまして、言わせて貰えば1時間余りで九州各県には直行便がございまして、佐賀県にはないではないかと誰かがおっしゃっていましたが、佐賀の方のおっしゃるには、佐賀は二つ持っているんだ。福岡空港も長崎空港もあれは佐賀県の空港で、適当に使うようにしてあると言う話でありまして、両方出来るわけでございます。しかし、お金の方は若干かかるのでありますが、その所は私たちも出来る限り努力させて頂きまして、何とか団体旅行で安く上げられればと思っております。そうすると正確な数を掴むことが必要になる訳でございます、アンケートなど取らせて頂くかも知れませんが、その節は宜しくお願いいたします。

何とか、私たち沖縄国際大学と一緒に頑張りたいと思っておりますので、是非皆様大勢おいで下さる

ようにお願いいたします。どうも失礼いたしました。(拍手)

議長

どうもありがとうございました。新しい役員館の皆様ご苦勞でございますが、宜しく来年もお願いいたします。次はその他一言ご提案を申し上げたいがございます。実は議長の職の事でございます。運営に関する細則によりますと、「総会の議長は当番館の館長とする」と言うことになっております。事故等を考えますと、当番館の議長の他に、国立だけではなくて公立、私立からもお一人ずつくらい議長をお出しになっていただいて、議長、副議長あるいは二、三人の議長団として運営してはどうかと、当番館と幹事館とでちょっと相談いたしました。ここで決めてくれと申し上げるつもりはございません。次の総会の時の冒頭に提案して頂いて、予め議長になられる方を予定しておいていただきまして、複数で運営して頂きましたら、議長になられた方がいろいろと身の細る思いをしないでやっていけると思いますので、そのことをお含みおきいただきたいと思っております。(拍手)

それから、各部会の当番館の方は、今回の開催時期の事で、相談いたしたいと思っておりますのでこの会議が済みまして、ちょっとロビーの方でお残りいただきたいと思っております。最後になりましたが、幹事館の館長先生から一言ご挨拶をお願いいたしたいと思っております。

九州大学 平嶋館長

僭越ではございますが、幹事館として一言ご挨拶申し上げます。

本日は、このように沢山の館長先生並びに事務の方々が、にぎにぎしくお集まりになりまして、実り多い討議が行われましたことを、皆様と共に喜びする次第でございます。本日の協議会が盛会裡に開催されるに当たりまして、佐賀医科大学の古賀館長、長課長をはじめ当番館の皆様がたに、大変お骨折りをいただきました。皆様と共に厚く御礼申し上げます。また、本日の味村先生の「高度情報化社会の現状と将来」と題する講演は、非常に勉強になる有益なお話でございました。手前味噌ではございますが、講師の人選をされました九州大学の砂本部長に拍手を送りたいと思っております。皆様すでにご承知のように、ごく最近、臨教審の第三次答中が出されております。大学に対する世間の関心は、近年とみに高まってまいりますと共に、大学の改革についてもいろいろと討議されております。

この中にあって、大学図書館はどうあるべきかと申しますと、図書館本来の任務である大学の研究と教育を支援する機関であると言うことに、昔も今もまた将来も変わることはございません。しかしながら、高度情報化社会にありましては、私どもの任務遂行のあり方が、昔とはすっかり変わってまいりまして、高度な近代機器並びに情報システムを駆使せねばならない状況となっております。こういう近代化にどう対処するか、これが私どもの当面する最大の課題でございます。各大学図書館では、それぞれの事情を活かして対応が望まれますが、お互いに知恵を絞って衆知を出し合っていきたいと思う次第でございます。また最近では、開かれた大学が話題になっております。その一環として図書館の公開サービスがございますが、これも微妙な問題をいろいろ含んでおりますので、それぞれの事情に応じた慎重な対応が望まれます。本日の協議会では、いろいろと有益な勉強をすることが出来まして、皆様と共によろこんでいる者でございますが、一昨年再び皆様とお会いする時には、更に楽しい話題がいっぱい寄せられることを期待いたします。来年度は琉球大学の皆様に、当番館としてお世話をお願いする訳でございますが、どうぞよろしくお願いいたします。最後になりましたが、本協議会がますます活性化すると共に、皆様のご活躍を期待いたしまして、私のご挨拶といたします。どうもありがとうございました。(拍手)

議長

私のつたない司会で迷惑をおかけしたかと思っておりますが、お陰様で予定の行事を全部終了させていただきましたので、議長を辞任させていただきます。(拍手)

佐賀医科大学 長 図書課長

本日はお忙しい中、各大学の皆様にお集まりいただき、長い時間にわたり有意義なご討議をいただきまして、大変ありがとうございました。皆様方の総意を持ちまして、昭和62年度九州地区大学図書館協議会総会を終了させていただきます。御協力どうもありがとうございました。

次の開催地であります沖縄で、また皆様とお会い出来ることを楽しみにいたしております。どうも、ありがとうございました。(拍手)

